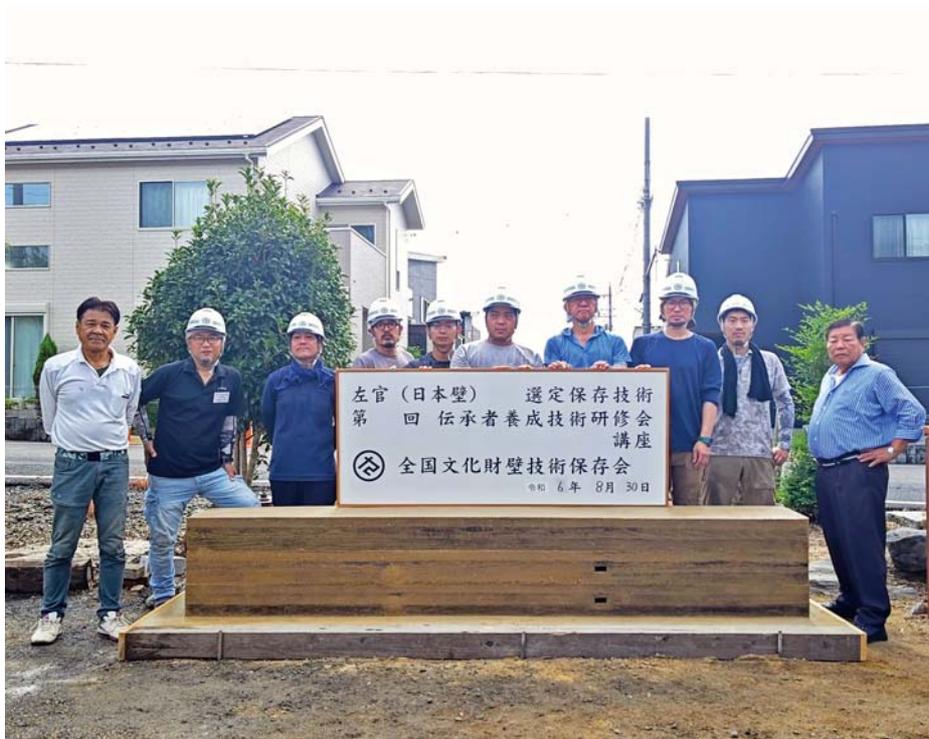


# 会報

## 全国文化財壁技術保存会

第 25 号



初級研修基礎講座

令和七（二〇二五）年三月二〇日発行  
 編集 行 集 （一社）全国文化財壁技術保存会  
 事務局 愛知県江南市力長町 大当寺二二八  
 TEL （〇五八七）五九一八〇〇〇

会長 安達保信



令和七年初頭にあたり、御挨拶申し上げます。

当会関係各位様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は多大なる御支援と、ご指導を賜り誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。当会会員の皆様におかれましても諸行事の運営、進捗にご協力頂きありがとうございます。

昨年令和六年は会としてひとつの節目の年でありました。令和六年四月一日に「一般社団法人全国文化財壁技術保存会」を発足し、法人化を行いました。去る五月の設立臨時総会においては、来賓のご出席のもと皆様にご承認を頂きまして、関係各位様にも広くご挨拶状を送らせていただきました。今後は法人としての責務と認識を強く意識し、また成果も十分に発揮できるよう努力いたしますのでご協力をお願いいたします。

さて、当会お蔭をもちまして新入会員の申込数を多く頂き会員数も増加して有り難い状況であります。また昨年も諸行事の予定を全て完了させて頂きました。

先ず初級研修として、文化財保存修理に関する左官技術の基礎を修得するため、八月・十月の二回に分けて行いました。八

月二十六日より三十日の五日間で、初日は国宝姫路城の修理現場見学を行い、作業工程や修理方法を学び雰囲気を感じられました。二日目は文化財修理に必須の材料と・工具の製造実態を見学して業者さんの苦境も実感しました。後、三日間は土間や土塀を土で突き固めて築き上げる、叩き土間・版築工法の研修を行いました。これは壁塗り工法とは異なり稀少な施工となります。

次いで、十月の研修は七日より十一日迄材料の土採取の現場の状況や、土の性質など文化財修理に不可欠の壁塗材の基本を教えました。後の四日間は壁の一番下地となる竹小舞下地の材料「こしらえ」と方法・種類を教えました。又、六月二十九日・三十日に中級試験として学科試験を行いました。要旨は文化財保存修理に関する技術の向上と

指導者となれるよう養成するものです。

そして九月二十二日には姫路城三の丸広場にて一般の来城者を対象に漆喰壁塗りの体験指導に参加いたしました。

十一月二日・三日には宮城県仙台市で開催されました文化庁主催日本の技フェアに参加いたしました。その節は当会会員・役員様には多大なるご協力を頂き、誠にありがとうございました。

又、他に一般社団法人文化財修理技術保存連盟様と協力し、国にお願いして文化財保存修理に関する諸問題に対処させて頂く所存でございます。

今後なお一層のご支援を賜り、文化財保存修理業界の将来に明るい未来が見えますよう、よろしくお願い申し上げます。あります。

## 副会長 中嶋正雄



日頃より関係者の皆様及び当会会員の皆様には多大な御支援と御協力をいただきまして厚く御礼申し上げます。

昨年は後継者育成を考え活動した一年となりました。特に一般社団法人文化財修理技術保存連盟様の御活動として参加した学校関係者との意見交換会では、我々保存団体が若手を起用したいと考えている会社と就職活動生を結びつける役目をしなければならぬと強く実感いたしました。

近年では人材育成を考え、イ

ンターンを受け入れている会員さんも増えていきます。職人となる人材も年々減少しており、このままでは文化財修復の担い手不足となってしまいます。職人として日々腕を磨くことはもちろん大切ですが、今まで培ってきた技を次の世代へつなげる事も職人としての使命だと思えます。一人でも多くの後継者を育て、少しでも永く文化財とその技術が保存されることを願うばかりです。

さて、昨年度当会は一般社団法人へ法人化したしました。今から三十年以上に数人が集まり、始まったこの会がここまで成長できたのは、常に支えて下さった関係者の皆様のおかげであります。深く感謝申し上げます。

今後とも皆様の変わらぬご支援・ご助力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

## 第32期(令和6年度)総会

令和六年五月十九日、京都市で任意団体全国文化財壁技術保存会第三十二期定期総会および一般社団法人全国文化財壁技術保存会臨時総会を開催しました。

来賓等は、文化庁文化資源活用課修理指導部門文化財調査官の結城啓司様、京都女子大学 家政学部 生活造形学科教授 鶴岡典慶様、岡山理科大学建築歴史文化研究センター・客員教授 江面嗣人様の三名にご臨席賜りました。

定時総会では、令和五年度事業報告及び収支報告、令和六年六月より全ての事業を一般社団法人へ引き継ぐ等、事業及び財産の移行が完了の後任意団体を解散とすること、令和六年度事業計画案及び収支予算案の審議、理事役員の選任、顧問推薦を行う、原案の通り承認されました。

尚、顧問推薦では来賓の江面嗣人様が推薦され顧問に就任されました。引き続き、選定保存技術左官(日本壁)伝承者養成技術研修会受講修了者への修了証の交付を行い、昨年度入会された新会員紹介を行いました。



安達会長あいさつ



結城様あいさつ



鶴岡様あいさつ



江面様あいさつ



証書授与

令和六年六月二十九日と三十日に京都市の都ホテル京都八条にて左官(日本壁)伝承者養成技術研修会 中級筆記試験が開催されました。

## 左官(日本壁)中級研修会 (筆記試験)

京都女子大学より鶴岡典慶様、伝統技法学庵より代表の高品正行様、岡山理科大学より、また今年度当会顧問となられた江面嗣人様の三名に講師としてお越しいただき、「技術者の心得と文化財建造物の修理」「日本壁の歴史」「壁保存修理の原則・施工上の留意点」「各地の左官技法」それぞれ講義をしていただきました。伝承者とは技術だけではなくと学ぶ機会となりました。

二日目には三名の講師から出題された試験を行い終了し、可否は後日発表されました。



江面氏 講義



安達会長あいさつ



高品氏 講義



鶴岡氏 講義



試験風景



中嶋副会長あいさつ

**左官(日本壁)  
初級研修会 基礎講座**

今年度の伝承者養成技術研修初級研修会は基礎講座が開催されました。前期を令和六年八月二十六日から三十日、後期を十月七日から十一日の十日間で開かれました。

前期では兵庫県姫路市の日本城郭センターにて姫路市教育委員会生涯学習部文化財課の福田剛史氏による姫路城修復を例とした文化財に関する講義、同文化財課の田路拓也氏の案内のもと現在も修復が行われている姫路城修復現場見学、スギタ工業にて鋳製造見学、宮谷製作所宮谷中氏の案内のもと三木市金物資料館見学、大阪府堺市の(株)北正商店にて苅製造見学、同市の深井北町会館にて(株)北正商店北野一成氏と(株)丸京石灰鳥越宣宏氏による苅と石灰の講義、滋賀

県大津市の(有)津田左官工業所にて津田弘道氏による土間三和土・版築工事の実技講習を行いました。

後期では京都市の尾崎色土製造所にて尾崎誠氏より土製造見学、浜橋組建材にて土採取場見学、津田弘道氏の案内にて彦根城修復跡地・草津本陣修復現場・石山寺修復跡地見学、(有)津田左官工業所にて小舞掻きとチリ箒作成の実技講習を行いました。

今年もたくさんの方々にご協力をいただきまして、無事に初級研修基礎講座を開催することができました。改めまして感謝申し上げます。

今年は有り難いことに研修の参加申込をかなり多く頂きました。来年度も同じ基礎講座を開催する予定で、再度新しく研修生を募集する予定です。



福田氏 講義



姫路城現場見学



三木市金物資料館



スギタ工業 鋳製作見学



北野氏 講義



(株)北正商店見学



研修修了生の版築



鳥越氏 講義



版築



三和土完成



版築



版築



竹割



尾崎色土製造所見学



石山寺見学



竹割



彦根城見学



草津本陣修復現場見学



小舞搔き



彦根城見学



小舞搔き



小舞搔き



チリ箒作り



小舞搔き



研修生集合写真



チリ箒

### 研修生の感想 (初級)

#### ■白石博一 (壁左匠しらいし株)

令和6年度伝承者養成技術研修会基礎講座では、姫路城郭センター、姫路城内現場工事等の大規模な土壁漆喰改修、屋根漆喰工事を間近で見えて理解することが叶いました。また、鍔製造、建材製造等、左官材の真髄に関わる方々との交流、その現場を知ることも出来た他、役員の方、及び参加研修生との意見交換も出来、大変有意義な研修となりました。今回参加させていただけたことで、より自分の中で様々な理解を深めることが出来ました。心から感謝いたします。ありがとうございます。

#### ■西原永 (株山脇組)

伝承者養成技術研修基礎講座を受講させてもらって、学ぶことができて、本当に感謝してお

ります。色々な方と、お話しして同じ時間を過ごさせて沢山学ぶことができて大変良かったです。

今の自分の仕事ができているのは、沢山の方の支えの中、成り立っているのだと感じました。道具や材料などどれひとつ欠けてはいけないということ。なり手不足な今、何としても次に繋げていかなくはと強く思いました。このように、色んな地域の沢山の人達と左官の技術やノウハウなど意見交換したり、学んだりしていきたいと心から思いました。そして、この先ずっと伝統技術が継承され続けることを願います。

#### ■平賀晃司 (平賀左官)

今回の度は基礎講座前期・後期に参加させていただき誠にあり

ました。今回沢山の事細かなご指導ありがとうございました。あらためて、頑張っていこうと思えました。

がとうございます。姫路城修復現場見学、スサ工場見学、石灰の座学、三和土版築の講習、色土製造所見学、彦根城見学、いろいろな壁の竹小舞、シユロのチリボウキの作り方この基礎講座ではいろいろな体験をさせていただきますました。今まで仕事でやったことのある作業、初めてやる作業、新しい発見、本当にいろいろなことを学び体験させていただきましたました。ありがとうございます。この経験を活かし、

今後の文化財修復に役立てていきたいと思えます。講師の皆様、関係者の皆様、この度は貴重な体験をさせていただき誠にありがとうございました。ありがとうございました。

#### ■星加智弘(吉村興業株)

今回の研修を修了し感じたことは、苧や土、石灰等の各材料を作る人たちのこだわりと、それらを調合し、現場で上手に塗る左官職人のこだわりがあつて

こそ文化財の壁が完成し、残つていくのだと思えました。まだ伝統工法による文化財の壁を塗る技術や経験は未熟ですが、日々精進したいと思えます。

また前期の研修で実技を教えていただいた津田弘道氏においては、数多く文化財の壁を経験してこられたからこそその知識や経験を語っていただき、大変貴重な時間になりました。今回の研修に尽力して頂いた関係者の皆様ありがとうございました。

#### ■越前谷晃史(吉村興業株)

今回の伝承者養成技術犬種会に参加させていただきありがとうございました。苧や石灰、土などの材料屋さんや鋳屋さんのお話を聞くことができ、普段使っている道具や材料がこうした方々のおかげで使えているのだと改めて感じました。

また姫路城や石山寺、彦根城など文化財を見学できる貴重な

機会もあり、なかなかこのような体験はできないのでとても良い経験になりました。

実技では版築や三和土、小舞掻きなどを教えていただきました。土を使う仕事はあまりやる機会がないですが、現場で活かせる機会があれば教えていただきたいことを実践していきたいです。最後になります。講師の先生方や事務局の方々、このような会を準備していただきありがとうございます。ありがとうございました。

#### ■小嶋優希

##### (有)津田左官工業所

この度は伝承者養成技術研修会初級研修に参加させていただきました。ありがとうございます。改めて左官材料をよく見て学ぶことができ、新しい発見もあり知見が広がりました。材料の研究は奥が深く、日本壁は左官職人だけでなく材料や道具職人さんたちが居てこそ、成り立ってい

るのだと改めて強く実感しました。我々左官職人は、材料に合った施工ができるように様々な技術を覚え伝えていかなければならないと思えました。

実技講習では、昔ながらの施工方法の難しさや、便利な現代の道具を使わずに施工することの大変さ、昔の職人がいかに高い技術力を持っていたか、大変学ばせていただきました。

全体を通して貴重な体験をすることができました。今後も様々なことに挑戦し、知識を深めてこの仕事に専念したいと思えます。講師の先生方、関係者の皆様ありがとうございました。

#### ■栗山文一郎(株原田左研)

まず初めに関係者の方々大変お世話になりました。前期の講習では、鋳の製造工程の多さ大変さ、石灰、スサの作り方を学べました。三和土と版築の配合、材料の違い、考え方の違いを感

じました。後期の講習では、小舞の種類、縄編みの種類を教えて頂きました。小舞でも竹の入れ方の違いや編み方の違いを感じました。初めて見る小舞や編み方、竹をナタで加工する難しさを学びました。また、チリ箒の制作では、初めて銅線を使ったチリ箒を作りました。締め込みにくさはあるけれど普段作っているチリ箒より作成のスピードが早く感じました。

### ■渡辺雄哉（中島左官株）

この度の研修会では、普段お会いすることのない講師の先生から版築や竹小舞のご指導を受け大変勉強になりました。研修生の中では一番経験のなかった自分にとって経験豊富な方が参加されていて知識量に刺激を受けました。

先生の方々、講師の方、研修生のみなさんありがとうございます。

## 研修生の感想（中級）

### ■加藤正幸

#### （しゃかんかとう屋）

今回の研修会では、私自身が日頃から気になり、感じていた事が幾つか答えに近付いた様に思えました。

「壁の在り方・材料等々」島国である事が独自性を豊かにし古代から現在まで発展し、あり続けている。継承・発展持続可能と思われる事。「文化財建造物の在り方」先人達の仕事を学ぶ。が一番でしたが、これは技法・技術に過ぎずもっと知的なものの方を変えるべきではないでしょうか。と、私的に光の先が見えた有意義な研修会でした。

講義をして頂いた先生方並びに役員の皆さん、お忙しいところありがとうございます。

### ■小島徹也

#### （有）津田左官工業所

この度の研修では、初めに江面先生の講義で文化財保護法や文化財を修理していく人の人格や精神を育てることについての講義を受けました。その中で文化財を修理していく事は、技術だけではなく修理していく職人の人格や精神も大切だということ学びました。

鶴岡先生の講義では、日本壁の歴史や時代による使用材料の変化またその地方よっての壁の仕上げ方法について学びました。

高品先生の講義では、左官工事施工上の留意点や各地の左官技法に学び、施工上の留意点では作業内容での失敗の発生原因が材料の良し悪しで決まることを学びました。

これらの学んだこと活かし、今後の文化財保存修理現場で役立てていきたいと思えます。この度は講義の先生方お忙しい中

ありがとうございました。

### ■畑中智也（木津工業所）

今回中級試験の講義と試験を受けて改めて左官は歴史が長くそして奥が深いものだと思えて実感しました。講義を受けるまでは毎日やっている仕事のことなのだから分からないことも余りないだろうと高を括弧つけていたが、いざ講義を受けてみると知らないことが大半で自分の未熟さを実感しました。知っているようで知らなかった文化財保護の目的・法・方法や左官の歴史や施工技法や留意点。一つ一つを聞かれるとスラスラ答えられないのはやはりまだ自分の中に正しい知識として入っていませんでした。正しい知識がないと人を説得し納得してもらおうこともできませんので、今回学んだことはこれで終わりではなく、次の疑問そしてまた新しい正しい知

識に繋いでいける様にこれからも努力していきたいと思えます。

最後になりましたが、今回講義をして下さった先生方、役員の方々お忙しいなかありがとうございます。これからも少しでも全国文化財壁技術保存会の一員として恥ずかしくないよう努力をしていきたいと思えます。ありがとうございます。

### ■光増健二（光増左官）

今回の研修会中級試験講義では技術者の心得と文化財建造物の修理（文化財修理の制度と手法）、日本壁の歴史、左官工事施工上の留意点について受講しました。技術者の心得と文化財建造物の修理では文化財保護法の目的の保存と活用によって国民の文化的向上に資することの内容を学びました。これまでの保護には保存中心であったこと、文化的向上とは高度な精神性や獲得人格の育成。文化財を修理

するうえで技術を持つて精神を表す手段とする。修理していくことで復原、構造補強し、活用の促進につながるように過去の人たちの技術に触れ未来に残せるよう、目的意識と高い技術を持つて広く周りに伝わっていくよう努力していかなければいけないと思えました。

日本壁の歴史では家形埴輪にみられる壁の形により古代から左官の技術が用いられていたのではないかということ、法隆寺金堂での工法が現代の壁の仕様に近いこと、材料の向上による普及、城郭をたくさん築いたことによつて技術が向上したこと、数寄屋建築の流行により意匠に変化が出たこと、明治時代にはセメントなどの新しい材料や技術、これらの技術や意匠や材料に対応しつつ現代の方法を取り入れて左官作業をしていきます。

左官工事施工上の留意点では未消化の石灰に起こる花咲の防止対策、荒壁の混練、凍害、鼠漆喰の斑、外部への石膏の施工は不適切、水の吸い上げによる故障などを学びました。実際に現場で対応したような留意点もあり対策は様々だと思えました。講師の方々には貴重な時間をいただきありがとうございます。

### ■石黒優（中島左官株）

改めてこの度の『中級資格講義』でもまた、様々な未知の新たな知識とそこから見出された発見と、文化財への向き合う上での無くてはならない職人としての姿勢を再確認するなど、自身にとつて糧と成る価値の有る経験を得る事が出来た機会と成りました。個人の左官技能の向上を日々邁進し精進すると共に、これから向き合っていく様々な建築物に対する仕事に於いても、

様、取り組んで行きたいと思えます。

### ■塩谷洋晴（大和左官）

六月二十九日、三十日と二日間中級研修を受けさせていただきました。昨年末の普通講座から半年ほどが経ち、久しぶりに会えた方もおり、講義の内容も詰まったもので時間が過ぎるのがとても早く感じるものでした。

今後は講師の先生方の教えを参考にして文化財修理に携わっていきたいと思えます。今回も大変お世話になった講師、役員、事務局の皆様へ感謝申し上げます。

### ■荒木英丸

#### （株）原田左官工業所

この度の研修会では3つの講義と試験がありました。『技術者の心得と文化財建造物の修理』では文化財の目的、活用、修理などで保護法の目的など確認できました。『日本壁の歴史』では

各時代の左官、西洋との違い『壁保存修理の原則・施工上の留意点』ではよく起こりそうな施工上の問題点と対策を教えてくださいました。この度の研修会で教わった事をすっかり現場に活かして行こうと思います。

### ■横井川武志

#### (田中昭義左官様)

六月二十九日、三十日と京都の都ホテルで研修及び中級のテストがありました。まず、江面先生による技術者の心得と文化財建造物の修理と言う内容で講義が行われました。文化財とは、文化財に対する人の考えとはそういう感じの精神的な内容が多かったです。普段から感じていたことだったので言葉にされて説明されるとなるほどと府に落ちた感じがしました。

続いて鶴岡先生のお話しは左官の移り変わり、歴史の話で何時から土壁は始まりいつの時代

にどんな壁が流行ったかなどの説明をしていただきました。法隆寺の壁に当時のまま残っているものがあるらしく、千何百年も残っている事に感動しました。今僕達が塗った壁は何年持つでしょうか？難しい所です。

最後に高品先生は左官工事施工上の留意点、各地の左官技法の説明をされました。三十年以上現場で管理されていたということで現場の失敗例の話をしていただきました。僕も経験したことがある事ばかりだったのでみんな同じような経験をしてかしくなっていくんだなと少し安心しました。

二日目はそれを踏まえたテストがありました。あとは神に祈ります。

■原翔一(原左官工芸)

今回の筆記試験では三人の先生方に色々なことを講義していただきました。

江面先生には職人としての心得を教えてください、自分たちが普段している壁を塗ったりする左官仕事は手段であり、それを通して次代に思いを伝えることなんだと聞いて、難しいことではあるが、なるほどと納得することでもあり勉強になりました。

普段は技術面のことばかり考えて仕事しているので精神面のことを教えていただき、また今度からは違った方面の考えを持つて仕事をしていこうと考えさせられました。

次の鶴岡先生の日本の壁の歴史では、いかにして現在の漆喰壁が出来たか教えていただき、特に桃山時代には日本壁と呼ばれる工法が全て出そろったと聞き、昔の左官職人の知識や技術は本当に凄いんだなと思ったりとを感じたのを覚えています。昔の左官職人の考えや努力があ

って今の左官の技術や歴史があるんだなとつくづく思いました。最後の高品先生は現場で四十年間も携わってきたこともあり、身近なお話が聞けてすごく頭に入ってきました。やはり、現場では失敗はつきもので、それによって勉強し対応していきのびなどと改めて思いました。

三人の先生方に教えていただいて、またこれからはいろいろな考えを持って仕事に取り組んでいけるなと思いつく勉強になりました。

### ■根本 英治

#### (吉村興業株式会社)

まず初めに、講師の先生方に感謝申し上げます。

この中級筆記試験のための講義は、私にとって大変良い経験になりました。頭は良くない方なので、前の席で集中して聞き、理解をして、講義を終えた後も部屋で真剣に勉強しました。で

すので、大丈夫と思っていたのですが、試験当日は問題を読んでも思い出せない事がありました。一分前に覚えていたはずの答えが頭に浮かばない状況でしたが、全力を尽くしました。

結果は不合格かもしれませんが、自分なりに頑張ったと思います。この講義を受けて、初級で勉強した時の気持ちに戻れたことは、とても貴重に感じました。先生方、本当にありがとうございました。ございました。

### 姫路城漆喰塗り体験会

令和六年九月二十二日、壁保存会と姫路市との共催事業、令和六年度姫路城漆喰塗り体験会を開催しました。

姫路城三の丸広場において、姫路城修復工事で実際に使用されている漆喰を使用し、平壁漆喰塗りと屋根目地漆喰塗りの体験を行いました。また左官仕

事や漆喰の説明と共に、道具や材料見本の展示も行いました。今年も多くの来城者に体験していただきました。体験会の指導員スタッフとして集まった当会会員も総勢20名以上となり、大盛況なイベントの様子は地元メディアでも報道され、大きな賑わいとなりました。





**文化庁 日本の技フェア**

令和六年十一月二日から三日までの二日間、文化庁主催「日本の技フェア」が開催されました。

今年、宮城県仙台市の夢メッセみやぎで開催されました。

当会も出展参加し、活動様子を写した写真パネルや材料、道具の展示を行いました。





## 新入会 会員紹介

令和六年一月から十二月に入会された会員の紹介です。

### ■松本祐二 (株)松本工業



この度、全国文化財壁技術保存会に入会させていただきました。

た、静岡県の株式会社松本工業、松本祐二と申します。

文化財工事で左官として携わるにあたり、工法や材料に道具等、伝統左官技術で実践施工されている壁保存会の会員の皆様方より、多くを学ぶことができたらと思っております。

次の世代に繋がる技術を残すために、日々謙虚に努めてまいりますので、今後ご指導のほどよろしく願います。

### ■加藤祐一 (加藤左官店)



この度、全国文化財壁技術保存会に入会させていただきました。加藤左官店 加藤祐一と申します。

文化財工事での左官壁工事は重要な位置にあり、社会的にも

責任があります。この度の入会を機に、皆様と様々な伝統的左官技術と向かい合い技術向上に努め、私たちの左官技術への思いが多くの皆様に認知され、次の世代に伝わり継承できるように、精進してまいりたいと思っております。どうぞよろしく願います。

### ■原田進 (株)原田左研



このたび、(一社)全国文化財壁技術保存会に入会させていただきました。大分県の株式会社原田左研 代表の原田進と申します。

伝統的左官技術を次の世代につなぐ役目があり、課題も多い中、皆様の知識や技術を学ぶことはとてもありがたく光栄に

存じます。これからも精進いたして参りますので、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

### ■平賀晃司 (平賀左官)



この度は、全国文化財壁技術保存会に入会させて頂き誠にありがとうございます。平賀左官、平賀晃司と申します。

全国の壁技術保存会の皆さまと交流させていただけることが自分にとって、学ぶところが大きいと思っております。文化財に携わる者として、日本の左官として、先人たちの残した伝統技術に恥じぬよう精進して参りたいと思っております。何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

■雨松宏樹 (株みなみもり)



この度、全国文化財壁技術保存会に入会させて頂きました株式会社みなみもりの雨松宏樹と申します。貴会で学び経験を積むことで、文化財の保存修理に携わる技術と知識を高めていきたい所存です。そして日本の伝統的な左官技術の素晴らしさを後世に継承したいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

■山口正太郎 (山正左官)



この度、全国文化財壁技術保存会に入会させて頂きました、三重県鈴鹿市の山正左官 山口正太郎と申します。現代には様々な材料がありますが、左官の原点は文化財の壁、土・漆喰だと思いい、その原点なくして左官は語れないと考えているので入会し学び身に着けたいと思っております。また会員の皆様方と交流を深め、自分の知識・経験のアップグレードをたく考えております。若輩者ですがぜひとも大先輩の皆様のご指導・ご鞭撻よろしくお願い致します。

■清川薫 (清川左官工業株)



この度、(一社) 全国文化財壁技術保存会に新しく入会させて

頂く事となり、誠にありがとうございます。香川県の清川左官工業株式会社 清川薫と申します。

全国の壁技術保存会会員様と交流し勉強させて頂ける事が嬉しく心より楽しみにしております。文化財等に携われる者として、先人の方々が守ってきた技術や伝統、文化など、団体や諸先輩方々に恥じないよう勉強し精進していく所存です。

何卒、ご指導の程よろしくお願いいたします。

編集だより

昨年は研修会やイベントを通して、会員の皆様には大変お力添えを頂きました。当会報誌も25号目の発行となり、会員をはじめとする関係者の皆様に感謝申し上げます。四月には一般社団法人として改めて出発することができ、会としても重要な一年

となりました。

事務局では会報誌に掲載したい記事を随時募集しております。ご感想、ご意見等は事務局までお寄せいただけますよう、お願いいたします。

また今回原稿をお寄せいただきました関係者の皆様方に御礼申し上げます。来年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。(編集・事務局)

保存会ホームページアドレス  
kabezonkai@sakura.ne.jp  
事務局 Eメール  
kabezonkai@outlook.jp



壁保存会 Instagram

**赤穂城跡公園**  
**二之丸庭園整備工事**  
**西中門復元工事**  
**(株)山脇組**

赤穂城は、正保二年(1645)に赤穂に入封した浅野長直によって、慶安元年(1648)から寛文元年(1661)にかけて築城された平城で、往時は城郭の南半部が瀬



戸内海に面する海城でありました。忠臣蔵で有名な赤穂浪士の町、播州赤穂に残る江戸時代初期に造られた城郭でその大名庭園の本丸庭園・二之丸庭園は国指定の名勝であり、昭和四十六年に「赤穂城跡」として国指定の史跡に指定されています。

昭和四十七年より二之丸公園の整備が始まり、現在まで多くの発掘・整備・復元が行われている中、今回は二之丸庭園の西中門の復元工事に携わらせていただきました。この度の復元に至る西中門は、一間一戸の高麗門で大扉潜り戸付、木造切妻造の本瓦葺の立派な門で、庭園側

には左右控え屋根を持ち、共に軒廻りは縄巻小舞下地で漆喰での総塗籠仕上げとなる復元工事でした。門は、鏡柱・控柱・冠木・束等はすべて赤身の櫂であり、少量の水でも変色しやすく、強アルカリの漆喰を多用する仕上げにとつては細心の注意が必要で、養生やチリ掃除をする際には気を使う施工となりました。

左官工事はまず屋根の土居葺の前に軒天井・屋根下地として30φ内外の丸竹に藁縄の二分で縄巻をしたものを垂木上に約五分間隔で、鉄釘で均等に打ち付け、荒壁を塗付ける工程から始まります。その後、野地、土居葺、瓦葺きを経て軒廻りの工程へ移りました。軒廻りは梁・桁・腕木・垂木・破風すべて塗籠の仕上げとなり、下地の竹には国産の秋狩り竹を20mm内外に割ったものを使用し、すべてに棕櫚縄の3〜5mmを均一に縄巻したものを

一定の間隔になるよう99に打ち付け、下地とした。すべての役物に下地竹を打ち付けるのは見た目以上に大変であり、手間のかかる作業となりました。



下地完了後は仕上がり寸法の加減もあり、荒壁・中塗りは使わず、漆喰のみでの塗籠の仕上げであったため、塗り代の調整が難しく下擦りの漆喰も寸法を測りながらの塗り付けとなり、今回の仕事の中で一番時間と手間を費やした工程となりました。

特に垂木型の寸法・墨出しをする際には、屋根の反りも考慮しつつ仕上がりで左右のブレが無いよう垂直に寸法出しをしていく事を念頭に、目の前の仕上がりが外れた後には地から見ると見え方が違ってくる事も経験があったのを踏まえ、慎重に墨出しと中塗りの作業を行いました。

漆喰中塗りが完了後、乾燥を見て漆喰上塗りを塗っていく頃には気温もだいぶ下がって漆喰上塗りをするには乾きが厳しい時期になっていたが、切付の仕上げも多い仕事であったので、乾

燥の期間は見つつ順番に仕上げを施工しました。工期の限りもあり、控え屋根の垂木型を上塗りする頃には会社の仲間の職人が皆で協力して仕上げを急ぎ、最後は良い経験となる施工ができたと思います。

今回の工事は復元工事ということもあり、普段は修復や修繕などの工事が多い中、今回のような一から造る工事は貴重な体験となります。これから先、何百年と残るであろう建物に携われた経験を活かし、今後も技術の継承と若い世代の育成に役立てたいと思います。



## 選定保存技術左官(日本壁) 伝承者養成技術研修会 受講修了者名簿

	番号	氏 名	所属事業所(交付時)	生 年	修了証交付日
第1期生	1	浅原 一郎	しっくい浅原	昭和48年	平成17年4月1日
	2	安達 明宏	(有)安達左官店	昭和39年	//
	3	北村 久彦	(有)津田左官工業所	昭和50年	//
	5	柴田 正樹	(株)山 脇 組	昭和50年	//
	6	中嶋 英貴	中 島 左 官(株)	昭和52年	//
	7	矢野 孝太郎	しっくい浅原	昭和48年	//
	第2期生	8	勝木 巖	左官業 佐藤	昭和37年
9		清水 達朗	(有)田代千治店	昭和49年	//
10		廣田 直人	しっくい浅原	昭和44年	//
11		山脇 一夫	(株)山 脇 組	昭和55年	//
12		伊佐次 卓也	中 島 左 官(株)	昭和59年	//
13		高屋 忠光	(有)田代千治店	昭和48年	//
14		香取 寛隆	(有)安達左官店	昭和51年	//
第3期生	15	本田 俊之	本田左官工業所	昭和56年	平成21年4月1日
	16	石田 均	石田左官工業	昭和33年	//
	17	大森 祐郎	(有)田代千治店	昭和51年	//
	18	塩畑 明浩	(株)山 脇 組	昭和62年	//
	19	田中 昭義	左官業 佐藤	昭和48年	//
第4期生	20	水野 秀紀	中 島 左 官(株)	昭和52年	平成22年4月1日
	21	吉川 司	(株)山 脇 組	昭和48年	//
	22	大石 晃司	左官業 佐藤	昭和53年	//
	23	及川 敏	(株)あじま左官工芸	昭和39年	//
	24	小迫 傳	小 迫 左 官	昭和22年	//
	25	山本 登	小 迫 左 官	昭和35年	//
	26	志村 まい子	中 島 左 官(株)	昭和58年	//
第5期生	27	荒木 孝行	(株)あじま左官工芸	昭和48年	平成25年4月1日
	28	永井 宏和	(株)山 脇 組	昭和55年	//
	29	淵田 桂太	中 島 左 官(株)	昭和52年	//
	30	本田 英雅	佐藤左官工業所	昭和45年	//
	31	御園 拓馬	本田左官工業所	昭和60年	//

	番号	氏 名	所属事業所(交付時)	生 年	修了証交付日
第6期生	32	足 立 純	(株)足 立 組	昭和47年	平成26年4月1日
	33	笹 原 剛	(株)あじま左官工芸	昭和54年	//
	34	中 田 一 真	(株)イ ス ル ギ	昭和59年	//
	35	野 村 智 広	佐藤左官工業所	昭和57年	//
	36	細 江 洋 平	中 島 左 官(株)	昭和57年	//
第7期生	37	今 成 辰 夫	吉 村 興 業(株)	昭和51年	平成29年4月1日
	38	太 田 勝 之	太 田 左 官	昭和47年	//
	39	大 田 雄 介	(株)山 脇 組	昭和63年	//
	40	加 藤 正 幸	しゃかん かとう屋	昭和47年	//
	41	木 谷 直 充	(株)しっくい浅原	昭和62年	//
	42	永 井 貴 晃	(株)イ ス ル ギ	昭和61年	//
	43	原 慶 介	原 左 官 工 藝	昭和53年	//
第8期生	44	森 田 真 伍	中 島 左 官(株)	昭和61年	//
	45	上 床 匡 史	中 島 左 官(株)	平成元年	平成30年4月1日
	46	小 島 徹 也	(有)津田左官工業所	昭和63年	//
	47	竹 内 一 司	(株)山 脇 組	昭和44年	//
	48	深 井 浩 昭	吉 村 興 業(株)	昭和44年	//
	49	藤 本 健一郎	原 左 官 工 藝	昭和42年	//
第9期生	50	丸 橋 優 樹	(株)しっくい浅原	昭和58年	//
	51	石 黒 優	中 島 左 官(株)	平成 2年	令和5年4月1日
	52	大 橋 光	中 島 左 官(株)	昭和58年	//
	53	塚 田 哲 平	片田儀斎営業所	昭和58年	//
	54	根 本 英 治	吉 村 興 業(株)	昭和46年	//
	55	畑 中 智 也	木 津 工 業 所	平成 5年	//
	56	原 田 正 志	(株)原田左官工業所	昭和54年	//
第10期生	57	光 増 健 二	光 増 左 官	昭和59年	//
	58	塩 谷 洋 晴	大 和 左 官	昭和50年	令和6年4月1日
	56	荒 木 英 丸	(株)原田左官工業所	昭和53年	//
	57	長 坂 晃 輔	(有)安達左官店	昭和60年	//
	58	横井川 武志	田中昭義左官(株)	昭和51年	//
	59	原 翔 一	原 左 官 工 藝	昭和59年	//

## 選定保存技術左官(日本壁) 伝承者養成技術研修会 中級研修受講修了者名簿

	番号	氏 名	所属事業所(交付時)	生 年	修了証交付日
第1期生	1	浅原 一郎	(株)しっくい浅原	昭和48年	平成25年4月1日
	2	北村 久彦	(有)津田左官工業所	昭和50年	//
	3	杉坂 健	中島左官(株)	昭和38年	//
	4	田中 昭義	(有)京壁 井筒屋佐藤	昭和51年	//
	5	矢野 孝太郎	(株)しっくい浅原	昭和48年	//
第2期生	6	安達 明宏	(有)安達左官店	昭和39年	平成27年4月1日
	7	榎本 英樹	木津工業所	昭和45年	//
	8	及川 敏	(株)あじま左官工芸	昭和39年	//
	9	大石 晃司	(有)京壁 井筒屋佐藤	昭和53年	//
	10	小林 常司	左 司	昭和43年	//
	11	佐伯 愛子	木津工業所	昭和52年	//
	12	志村 まい子	しゃかん かとう屋	昭和58年	//
第3期生	13	長谷 清高	(株)あじま左官工芸	昭和47年	//
	14	笹原 剛	(株)あじま左官工芸	昭和54年	平成29年4月1日
	15	清水 達朗	(有)田代千治店	昭和49年	//
	16	今成 辰夫	吉村興業(株)	昭和51年	令和元年5月12日
	17	太田 勝之	太田左官	昭和47年	//
第4期生	18	木谷 直充	(株)しっくい浅原	昭和62年	//
	19	原 慶介	原左官工芸	昭和53年	//
	20	山脇 一夫	(株)山脇組	昭和55年	令和6年4月
	21	中嶋 英貴	中島左官(株)	昭和52年	//
	22	津田 弘道	(有)津田左官工業所	昭和39年	//
	23	加藤 祐一	加藤左官店	昭和46年	//
	24	柴田 正樹	(株)山脇組	昭和50年	//
	25	原田 正志	(株)原田左官工業所	昭和54年	//
	26	大森 祐郎	(有)田代千治店	昭和51年	//
	27	丸橋 優樹	(株)しっくい浅原	昭和58年	//
	28	森田 真伍	中島左官(株)	昭和61年	//
	29	松本 祐二	(株)松本工業	昭和42年	//

## 一般社団法人全国文化財壁技術保存会 会員名簿

	会員名	代表者(所属先)	郵便番号	住 所
第 1 種 正 会 員	1	(株) 山 脇 組	山 脇 一 夫	〒670-0974 兵庫県姫路市飯田1丁目24番地
	2	中 島 左 官 (株)	中 嶋 正 雄	〒483-8104 愛知県江南市力長町大当寺128
	3	(有)津田左官工業所	津 田 弘 道	〒520-0105 滋賀県大津市下坂本1丁目20番22号
	4	小 林 左 官 店	小 林 錦 四 郎	〒643-0004 和歌山県有田郡湯浅町湯浅2132-17
	5	(有)安達左官店	安 達 明 宏	〒600-8184 京都市下京区花屋町通間之町西入天神町411番地の2
	6	(株)しっくい浅原	浅 原 一 郎	〒607-8193 京都府京都市山科区大宅沢町185番地
	7	石 田 左 官 工 業	石 田 均	〒761-0902 香川県さぬき市大川町富田中2147番地
	8	(株)あじま左官工芸	阿 嶋 一 浩	〒125-0062 東京都葛飾区青戸8丁目19-11
	9	(有) 松 本 組	松 本 勉	〒784-0052 高知県安芸市井ノ口乙1202-3
第 2 種 正 会 員	10	(有)田代干治店	田 代 剛 一	〒600-8242 京都府京都市下京区猪熊通り塩小路下る上夷町165番地
	11	(有)京壁井筒屋佐藤	佐 藤 ひろゆき	〒602-8362 京都市上京区御前通下立売上る仲之町296
	12	左 司	小 林 常 司	〒604-8145 京都市中京区元竹田町639-11
	13	しゃかんかとう屋	加 藤 正 幸	〒518-0024 三重県伊賀市東高倉2380-11
	14	(株) イ ス ル ギ	石 動 嘉 信	〒921-8027 石川県金沢市神田1丁目31番1号
	15	木 津 工 業 所	木 津 恵 雄	〒605-0081 京都府京都市東山区古門前通り大和大路入る2丁目三吉町344
	16	(株) お お た 左 官	大 田 勝 之	〒769-1502 香川県三豊市豊中町笠田笠岡3156番地3

	会員名	代表者(所属先)	郵便番号	住 所
第 2 種 正 会 員	17	原 左 官 工 藝	原 健 一	〒640-8286 和歌山市湊御殿2丁目6
	18	吉 村 興 業 (株)	吉 村 誠	〒165-0031 東京都中野区鷺宮4-10-6
	19	(株)原田左官工業所	原 田 正 志	〒990-0892 山形県山形市中野423の1
	20	ヤマモト左官	山 本 登	〒586-0027 大阪府河内長野市千代田台町17-21
	21	大 和 左 官	塩 谷 洋 晴	〒475-0841 愛知県半田市大和町1-57
	22	田中昭義左官(株)	田 中 昭 義	〒616-0023 京都市西京区嵐山宮ノ前35-4
	23	(株)富土工舎	荒 木 富士男	〒811-1245 福岡県那珂川市大字別所1103-1
	24	光 増 左 官	光 増 健 二	〒736-0088 広島県広島市安芸区畑賀3丁目22-10
	25	宮 奥 左 官 工 業	宮 奥 淳 司	〒633-2155 奈良県宇陀市大字陀黒木1028
	26	壁左匠しらいし(株)	白 石 博 一	〒306-0023 茨城県古河市本町4-14-29
	27	(株)小倉左官店	小 倉 道 生	〒509-6251 岐阜県瑞浪市日吉町7571番地8
	28	大 橋 左 官	大 橋 和 広	〒960-0801 福島県伊達市霊山町掛田字日向137-8
	29	(株)松本工業	松 本 祐 二	〒437-1612 静岡県御前崎市池新田3233
	30	加 藤 左 官 店	加 藤 祐 一	〒350-1213 埼玉県日高市高萩2221-21
31	(株)原田左研	原 田 進	〒877-0061 大分県日田市大字石井372-3	
32	平 賀 左 官	平 賀 晃 司	〒739-2101 広島県東広島市高屋町造賀5664-3	

		会員名	代表者(所属先)	郵便番号	住 所
賛 助 会 員	33	宮 谷 製 作 所	宮 谷 邦 夫	〒673-0441	兵庫県三木市別所町朝日力丘 35-69
	34	村 檜 石 灰 工 業 (株)	村 檜 太 郎	〒327-0509	栃木県佐野市宮下町1番10号
	35	(株) 北 正 商 店	北 野 一 成	〒599-8271	大阪府堺市中区深井北町104-2
	36	尾 崎 色 土 製 造 所	尾 崎 良 弘	〒612-0862	京都府伏見区深草大亀谷西久宝寺 町7
	37	(株) 丸 京 石 灰	鳥 越 宣 宏	〒879-2474	大分県津久見市徳浦2052-5
	38	田 中 石 灰 工 業 (株)	田 中 克 也	〒783-0084	高知県南国市稲生3185番地
第 2 種 準 会 員	39	雨 松 宏 樹	(株)みなみもり	〒656-2131	兵庫県淡路市志筑389-1-6-D
	40	山 口 正 太 郎	山 正 左 官	〒510-0211	三重県鈴鹿市東旭が丘4丁目3-52
	41	清 川 薫	清川左官工業(株)	〒769-2704	香川県東かがわ市白鳥2468-0

令和6年12月時点

## 〈 事 務 局 〉

〒483-8104 愛知県江南市力長町大当寺128

TEL : 0587-59-8000 FAX : 0587-54-9090

E-Mail : kabehozonkai@outlook.jp

HP : <http://kabehozonkai.sakura.ne.jp>